

○評価理由

委員報告	業務実績評価書(案)
<p>1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）</p> <p><b>【理由】</b></p> <p>① グローバル化に対応できる人材育成、アクティブラーニング室開設等による教育・学修環境の整備等、教育の質向上への取組みが良好に進捗していると認められる。</p> <p>② 遠隔授業システムの利便性向上のため、スカイプ等の利用ができるよう改善を図ったことは評価できる。</p> <p>③ 就職率が28年度は99%と前年を上回る実績となったことは大学の評価をより高めることになり、29年度以降の大学の運営に大きなプラスになるものとする。</p> <p>また、県内バスツアーを開催し、就職支援を行ったことや、首都圏で就職活動をする学生のためにオープンスペースを確保したことは評価できる。</p> <p><b>【提案事項等】</b></p> <p>① オープンキャンパスや積極的な高校訪問を行っていることは評価するが、昨年度に比べ、志願者は減少しているため、より実効性の高い取組となるよう内容の検討も行うべきと考える。</p> <p>② 大学院課程の志願者・入学者数が、昨年度に引き続き確保されておらず、より一層の取組みが求められる。</p> <p>③ 卒業後の就職率は99%と高水準であるが、県内就職率は40%（県内に本社がないものを含めると50%）と県内大学の中では健闘していると考え、地域への貢献という観点から、より一層の取組みを求めたい。</p> <p>④ ワイカト大学への派遣では、単なる語学研修にとどまらず、その機会を活かし、現地でミニ青森フェアなどを実施するなど、青森市をPRするような取組を行うこともよいのではないか。</p>	<p>1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（教育）</p> <p>教育方法の改善に関して、アクティブラーニング室の開設等により、教育・学修環境の整備等を行ったほか、グローバル化への対応として学生を海外研修等へ派遣し、人材育成に努めたことは評価できる。</p> <p>教育環境の整備に関して、大学院課程において、遠隔授業システムの利便性向上のため、スカイプ等の利用ができるよう改善を図ったことは評価できる。</p> <p>キャリア支援に関しては、平成28年度就職率が99%と前年を上回る実績となり、大学の評価をより高めたことや、県内バスツアーなどの就職支援、首都圏で就職活動する学生のためのオープンスペースを確保したことは、平成29年度以降の大学運営に大きなプラスとなるものと評価できる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画を達成していると認められることから、全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるものと評価できる。</p> <p>なお、大学への志願者の増加に向け、オープンキャンパスや積極的な高校訪問を行ったことは評価できるが、昨年度に比べ、志願者数は減少していることから、より実効性の高い取組となるよう内容の検討を行うべきと考える。</p> <p>大学院課程の志願者・入学者数についても、入学定員と同数程度の志願者を、昨年度に引き続き確保できなかったことから、より一層の取組を求める。</p> <p>また、県内就職率は40%（県内に本社がないものを含めると50%）と県内大学の中では健闘しているものの、地域への貢献という観点から、より一層の取組を求める。</p> <p>そして、ワイカト大学への学生派遣では、語学研修にとどまらず、その機会を活かし、青森市をPRするような取組を行うこともよいと考える。</p>

委員報告	業務実績評価書(案)
2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）	2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（研究）
<p><b>【理由】</b></p> <p>① 大学が主体となった青森市の中心市街地活性化に関する取組や地域貢献事業（物産展、コンサート、講演会など）は、評価できる。</p> <p>② 外国語講座が募集定員を大幅に上回り追加開催するなど市民等への還元が十分になされるなど、良好に進捗していると認められる。</p> <p>③ 公開講座を計画比16回上回る実施となったことは、大学の取組みの意欲の表れであり、大いに評価できる。また、応募者のニーズを的確に捉えた講座を開催したことが応募者の増加に繋がっている。</p> <p>④ 企業訪問や学外ゼミ、フィールドワークによる授業内容の充実させる取組を行ったことは、教育分野のみならず、研究分野においても地域分析・研究をする場合に重要であることから、評価できる。</p> <p>⑤ 研究費の不正使用、不正行為の防止に向けた内部監査・研修等を適切に実施しており、評価できる。</p> <p><b>【提案事項等】</b></p> <p>① 教員に積極的に働き掛けるなど、戦略的研究助成事業を活用した研究活動が推進されるような取組を期待する。</p> <p>② 行政施策において大学生の活動を前提としているものも多く、経営経済分野でも行政との連携が取りやすい傾向にあることから、研究者の中長期的な取組テーマにすることができるのではないかと考える。</p>	<p>研究内容に関しては、青森市との連携協力を進めるため、大学主体による中心市街地活性化に関する取組や物産展などの地域貢献事業に取り組んだことは評価できる。</p> <p>研究水準及び研究成果に関しては、公開講座のうち、ビジネス英語や観光英語などの外国語講座が募集定員を大幅に上回ったため、要望に対応し、追加開催するなど、市民等への大学の研究成果の還元が十分になされたことは、大学の取組の意欲の表れであると評価できる。</p> <p>研究実施体制等の整備に関しては、特に地域みらい学科の授業において地域分析や研究をする場合に重要となる企業訪問やゼミ、フィールドワークを実施したことは、地域分析・研究をする場合に重要であり、評価できる。</p> <p>また、研究費の不正使用、不正行為の防止に向けた内部監査・研修等を実施したことも評価できる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画を達成していると認められることから、全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるものと評価できる。</p> <p>なお、研究内容に関し、研究活動の活性化を目的に戦略的研究助成事業を実施しているが、教員に積極的に働き掛けを行うなど、戦略的研究助成事業を活用した研究活動が推進されるような取組を期待する。</p> <p>また、経営経済分野は、行政との連携が取りやすい傾向にあることから、研究者の中長期的な取組テーマとして取り組むことも可能と考える。</p>

委員報告	業務実績評価書(案)
<p>3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（地域貢献）</p>	<p>3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置（地域貢献）</p>
<p><b>【理由】</b></p> <p>① 研究成果の地域への還元、地域の高等学校との連携に大きな成果をあげており、大いに評価できる。</p> <p>② <u>公立はこだて未来大学との連携協定に基づくワークショップが未実施となったことは、課題としてある</u>が、中心市街地活性化を目的とした地域貢献事業の実施、公開講座の活発な開催、連携協定校であるイギリスの大学との交流において青森市の魅力をPRするなどの活動等、良好に進捗していると認められる。</p> <p><b>【提案事項等】</b></p> <p><u>公立はこだて未来大学との連携協定に基づくワークショップが未実施となったことは、課題としてある</u>(再掲)</p> <p>① ここ1、2年で地元青森市を含め地方は急激な人手不足になっている。地域貢献という意味での更なる地元就学促進を考えてほしい。</p> <p>② 研究テーマを地域から発掘し、大学の研究を活性化すること、青森市国際交流事業との連携を充実させることについては、現時点で進捗が見られないことから、中期計画の達成に向け、具体的な年度計画を定め、計画的に取り組むことを期待する。</p>	<p>研究成果の地域への還元に関しては、公開講座や資格試験講座、地域貢献事業の実施など、大学の研究成果を地域に還元する取組を行っていることは一定の評価ができる。</p> <p>国際交流に関しては、連携協定校であるイギリスのスターリング大学との交流事業の中で、青森公立大学学長が、青森公立大学の特長や取組、青森市の魅力を講演し、その様子が日本スコットランド交流協会の機関誌にも取り上げられるなど、国際交流の推進が図られたことは評価できる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画を達成していると認められることから、全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるものと評価できる。</p> <p>なお、地域の大学間連携に関しては、公立はこだて未来大学との学術交流協定に基づく、ワークショップ等が未実施となったことは課題である。</p> <p>また、近年、地元青森市を含め、地方は急激な人手不足になっていることから、地域貢献という意味での更なる地元就学促進策の検討を期待する。</p> <p>中期計画のうち、県内市町村との連携に関し、「研究テーマを地域から発掘し、大学の研究を活性化すること」、国際交流に関し、「青森市国際交流事業との連携を充実させること」については、現時点で年度計画に取組が見られないことから、中期計画達成に向け、具体的な年度計画を定め、計画的に取り組むことを期待する。</p>

委員報告	業務実績評価書(案)
4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
<p><b>【理由】</b></p> <p>① 事務職員を海外に派遣する制度は、グローバル化の時代にあっては非常に求められるところであり、海外大学との連携強化や国際インターンシップの開拓など大学の戦略的な取組が必要と考えることから、評価できる。</p> <p><b>【提案事項等】</b> なし</p>	<p>人事の適正化に関して、グローバル化の時代にあって、今後、海外大学との連携強化や国際インターンシップの開拓など大学の戦略的な取組も必要となると考えられることから、事務職員を海外研修派遣し、国際化に対応した人材を育成することは、評価できる。</p> <p>その他の事項に関しては、年度計画を達成していると認められることから、全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるものと評価できる。</p>

委員報告	業務実績評価書(案)
5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	5 経営・財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
<p><b>【理由】</b></p> <p>① 積極的な外部資金の獲得に努めていること、新たな情報システム導入による事務の効率化に努めていることなど、良好に進捗していると認められる。</p> <p>② 財務分析の実施や予算編成におけるスクラップアンドビルドによる効率的かつ健全な財政状況の維持・充実に向けた取組を行っていることは評価できる。</p> <p><b>【提案事項等】</b></p> <p>① 国際芸術センター青森のより一層の活用・収益への寄与を期待する。</p> <p>② 施設の一般貸出による収入確保や、アウトソーシングなどによる業務の効率化、情報システムの効果的な活用など、時代情勢に合わせ、業務内容を見直していく取組は重要であることから、引き続き積極的な取組を期待する。</p>	<p>積極的な外部資金の獲得に努めていることは評価できる。</p> <p>また、経費の抑制に関しては、スクラップアンドビルドを原則とした予算編成や新たな情報システム導入による事務の効率化に努めたことは評価できる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画を達成していると認められることから、全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるものと評価できる。</p> <p>なお、国際芸術センター青森については、より一層の活用と収益への寄与を期待する。</p> <p>また、施設の一般貸出による収入確保や、アウトソーシングなどによる業務効率化、情報システムの効果的な活用など、時代情勢に合わせ、業務内容を見直していくことが重要であるとする。</p>

委員報告	業務実績評価書(案)
6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置	6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置
<p><b>【理由】</b></p> <p>① 大学業務を的確に実施しているとともに、情報開示にも努めていることや、P D C Aサイクルによる継続的な業務改善や経営体質の強化に努めていることは評価できる。</p> <p>② 業務運営改善を目的とした教員・事務職員の目標設定及び自己点検・自己評価については、昨年度C評価であったが、新たな人事評価について給与への反映も含めて29年度の試行開始に向けて検討が行われるなど良好に進捗していると認められる。</p> <p><b>【提案事項等】</b> なし</p>	<p>評価結果の活用に関しては、P D C Aサイクルによる継続的な業務改善や経営体質の強化に努めるとともに財務状況等情報開示にも努めていることは評価できる。</p> <p>また、教員の研究活動上の不正行為等の防止に関する研修実施による意識啓発の推進を図ったことは評価できる。</p> <p>昨年度C評価であった教員・事務職員の人事評価について、平成29年度の試行開始に向けた検討が行われるなど良好に進捗していると認められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画を達成していると認められることから、全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるものと評価できる。</p>

委員報告	業務実績評価書(案)
7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	7 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置
<p><b>【理由】</b></p> <p>① 学生や教職員の健康や安全に対する配慮、大学の諸施設を効果的に運営していくための取組は評価できる。</p> <p>② 平成27年度は情報セキュリティポリシーが作成されずC評価であったが、平成28年度において作成・公開されるなど、良好に進捗していると認められる。</p> <p><b>【提案事項等】</b></p> <p>① サテライト施設の利活用について、専任研究員等を配置し、公開講座等の地域貢献事業を行っていることは評価するが、他大学等の取組等も踏まえ、検証をしたうえで、より効果的な活用がなされることを期待する。</p>	<p>施設設備の整備・活用等及び安全管理に関し、学生や教職員の健康や安全に対する配慮、大学の施設を効果的に運営していくための取組は評価できる。</p> <p>昨年度C評価であった情報セキュリティポリシーの作成・公開が、平成28年度において行われ、良好に進捗していると認められる。</p> <p>その他の事項に関しても、年度計画を達成していると認められることから、全体として、中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあるものと評価できる。</p> <p>なお、サテライト施設の利活用については、専任研究員等を配置し、公開講座等の地域貢献事業が行われているが、他大学等の取組等も踏まえ検証を行い、より効果的な活用がなされることを期待する。</p>

【全体評価】

委員報告	業務実績評価書（案）
1 総評	1 総評
<p>① 中期計画で定める就職率の維持基準である96%台を上回り、高い水準を維持していることは評価できる。</p> <p>② 中期計画で定める全入学定員の3倍程度の志願者を常に確保するという内容を達成していることは評価できる。</p> <p>③ 地域貢献においては、外国語講座に多くの応募者があり、計画を16回上回る講座を実施したことは大いに評価できる。今後とも、地域貢献として、ニーズを把握し、大学の研究成果を還元していただきたい。</p> <p>④ 教育の質の向上に関する多くの取組みがなされているほか、公立大学としての地域貢献である県内就職率向上のための取組み、青森市の中心市街地活性化への貢献事業の実施など、各分野において評価できる多くの取組みがされている。</p> <p>⑤ 計画を上回る取組みも認められることから、大学の努力に対しては、大いに評価できるものであり、これからの益々の発展・活躍を期待する。</p> <p>⑥ 全体の就職率は、今後も維持した上で、公立大学に求められる地元就職率の向上に向けた取組を期待する。</p> <p>⑦ 地域に開かれた大学として、存在感を高めるとともに、県外から進学した学生の県内就職率が次第に高まるよう地域社会と重層的に連携した大学運営がされるよう期待する。</p>	<p>公立大学法人青森公立大学は、教育・研究の一層の推進と活性化を図ることにより、青森市の発展のために必要とされる有為な人材の輩出と、大学が持つ知的財産を市民に還元し、経営経済をはじめとする各分野において、市が掲げる施策の推進に貢献し、市民の生活及び文化の向上に寄与していくことを使命としている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 10px auto;">第2期中期目標前文からの抜粋</div> <p>第2期中期目標期間（平成27年度から平成32年度まで）の2年目となる平成28年度は、学部入学定員の3倍程度の志願者を確保するとともに、就職率についても前年度を上回る99%を達成するなど、優秀な人材を育成し、地域に輩出するとともに、公開講座においては、多くの応募者があった講座を、要望に対応し追加開催したほか、</p> <p>青森市との連携協定に基づき、青森市中心市街地活性化に向け、県内自治体や他大学と連携し、物産展などの地域貢献事業を実施したことなどにより、市民の生活及び文化の向上に寄与したものと認められる。</p> <p>年度計画については、中期計画の達成に向けてほぼ計画どおりに実施したと評価できる。</p> <p>なお、今後は、大学全体の就職率は維持した上で、県外入学生の県内就職率を高めるなど、公立大学に求められる地元就職率の向上が図られるよう更なる取組を期待する。</p>

委員報告	業務実績評価書（案）
2 業務の実施状況	2 業務の実施状況
<p><u>1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）</u></p> <p>① グローバル化に対応できる人材育成、アクティブラーニング室開設等による教育・学修環境の整備等、教育の質向上への取組みが良好に進捗していると認められる。</p> <p>② 遠隔授業システムの利便性向上のため、スカイプ等の利用ができるよう改善を図ったことは評価できる。</p> <p>③ 就職率が28年度は99%と前年を上回る実績となったことは大学の評価をより高めることになり、29年度以降の大学の運営に大きなプラスになるものと考えられる。</p> <p>また、県内バスツアーを開催し、就職支援を行ったことや、首都圏で就職活動をする学生のためにオープンスペースを確保したことは評価できる。</p> <p><u>2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）</u></p> <p>① 大学が主体となった青森市の中心市街地活性化に関する取組や地域貢献事業（物産展、コンサート、講演会など）は、評価できる。</p> <p>② 外国語講座が募集定員を大幅に上回り追加開催するなど市民等への還元が十分になされるなど、良好に進捗していると認められる。</p> <p>③ 公開講座を計画比16回上回る実施となったことは、大学の取組みの意欲の表れであり、大いに評価できる。また、応募者のニーズを的確に捉えた講座を開催したことが応募者の増加に繋がっている。</p> <p>④ 企業訪問や学外ゼミ、フィールドワークによる授業内容の充実させる取組を行ったことは、教育分野のみならず、研究分野においても地域分析・研究をする場合に重要であることから、評価できる。</p> <p>⑤ 研究費の不正使用、不正行為の防止に向けた内部監査・研修等を適切に実施しており、評価できる。</p> <p><u>3 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）</u></p>	<p>教育研究等の質の向上（教育、研究及び地域貢献）に関しては、アクティブラーニング室の開設等により教育・学修環境の整備等を行ったことや、総合研修や語学研修派遣により海外における教育機会の充実を図るなど、人材育成に努め、就職率99%という高い水準を維持している。</p> <p>また、募集定員を上回った公開講座について、要望に対応し追加開催するなど市民等への大学の研究成果の還元が十分になされたほか、</p> <p>連携協定校イギリスのスターリング大学との交流において、青森公立大学学長が青森公立大</p>

<p>① 研究成果の地域への還元、地域の高等学校との連携に大きな成果をあげており、大いに評価できる。</p> <p>② 連携協定校であるイギリスの大学との交流において青森市の魅力をPRするなどの活動等、良好に進捗していると認められる。</p>	<p>学の取組や青森市の魅力について講演し、その様子が日本スコットランド交流協会の機関誌に取り上げられるなど、友好交流の推進に寄与したものと認められる。</p>
<p><u>4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画</u></p>	<p>事務職員を海外へ派遣する海外研修制度を実施し、国際化に対応した人材の育成に関する取組がなされた。</p>
<p>① 事務職員を海外に派遣する制度は、グローバル化の時代にあつては非常に求められるところであり、海外大学との連携強化や国際インターンシップの開拓など大学の戦略的な取組が必要と考えることから、評価できる。</p>	
<p><u>5 経営・財務内容の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画</u></p>	<p>経営・財務内容の改善に関しては、外部資金の獲得に努めたことや、情報システムの導入により、事務の効率化に努めたことなど、経費の抑制に向けた取組がなされた。</p>
<p>① 積極的な外部資金の獲得に努めていること、新たな情報システム導入による事務の効率化に努めていることなど、良好に進捗していると認められる。</p>	
<p>② 財務分析の実施や予算編成におけるスクラップアンドビルドによる効率的かつ健全な財政状況の維持・充実に向けた取組を行っていることは評価できる。</p>	
<p><u>6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画</u></p>	
<p>① 大学業務を的確に実施しているとともに、情報開示にも努めていることや、PDCAサイクルによる継続的な業務改善や経営体質の強化に努めていることは評価できる。</p>	
<p>② 業務運営改善を目的とした教員・事務職員の目標設定及び自己点検・自己評価については、昨年度C評価であったが、新たな人事評価について給与への反映も含めて29年度の試行開始に向けて検討が行われるなど良好に進捗していると認められる。</p>	<p>また、自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供並びにその他業務運営に関しては、いずれも平成27年度に未実施となっていた内容について、進捗が認められ、その他の事項についても着実に実施されている。</p>
<p><u>7 その他業務運営に関する目標を達成するための計画</u></p>	
<p>① 学生や教職員の健康や安全に対する配慮、大学の諸施設を効果的に運営していくための取組は評価できる。</p>	
<p>② 平成27年度は情報セキュリティポリシーが作成されずC評価であったが、平成28年度において作成・公開されるなど、良好に進捗していると認められる。</p>	



委員報告	業務実績評価書（案）
3 組織、業務運営等に係る改善事項等	3 組織、業務運営等に係る改善事項等
<p>① 大学院課程の進学者・入学者の確保については、経済状況を含めた社会的背景という事情はあるものの、抜本的な対策を考える時期に来ているものと考え。</p> <p>② 大学院の定員確保については、様々な努力を行っているが、現在の活動を強化しても達成は難しいと感じられることから、4年生の大学院志望者の獲得や経済学や経営学、地域おこし等について学ぶ学習サークルの強化・支援、AO入試の留学生枠を活用し、学部・大学院を一貫して学ぶ学生を募集するなど対策の検討を期待する。</p> <p>③ 異なる年度計画の内容に対し、業務実績及び自己評価が同一の内容となっているものがあるが、計画内容に対する評価ポイントを明確にし、適正な自己評価となるよう年度計画を作成すべきと考える。</p> <p>④ 業務運営等にあたっては、「努めた」「検討した」と自己評価している部分がある。その結果どうなったのか、どのような成果に結びつけていくことができたのかが大事であり「努めた」「検討した」に止まることなく、もう一步踏み出すことを期待したい。</p>	<p>大学院課程については、入学定員と同数程度の志願者を常に確保することを中期計画に定めているが、2年連続で確保できていない状況にあることから、経済状況を含めた社会的背景という事情はあるものの、4年生の大学院志望者を獲得するなど、抜本的な対策を考える時期に来ているものと考え。</p> <p>また、業務実績が「努めた」「検討した」としている項目については、その結果、どのような成果があったかが重要であることから、年度計画の評価ポイントを明確にし、それに基づいた適正な取組・評価が行われるよう年度計画を作成すべきと考える。</p>